

第 1 回認定薬局普及推進 WG 会議議事録

1. 日時場所 令和 4 年 6 月 10 日（金）19:00～20:15 於県薬会議室（※：web）
2. 出席者 川上英宏、内田一成、大坪泰昭、有海英人、中村英治※、矢野理史、久保田明子、市瀬欽子、神谷浩貴
3. 内容
 - (1) 認定取得への障害・問題点
 - ・地域連携薬局
 - 1) 地域包括ケアシステム会議等への継続的な参加
コロナ禍による対象会議の減少、会議が要件に該当するか不明。
 - 2) 医療機関への情報提供の実績（月 30 回以上）
どのような様式で情報共有するか不明瞭。
 - 3) 無菌製剤処理の体制
卓上型簡易クリーンベンチ設置可。大きな障害ではない。
 - ・専門医療機関連携薬局
 - 1) がんの専門性を有する薬剤師の育成
県内研修施設が山口大学病院のみ。研修への参加が最大の障害。
 - 2) 医療機関（がん診療連携拠点病院等）との会議への継続的な参加
継続的な会議開催自体が困難な状況。
 - (2) 認定取得のための対応策
 - ・地域連携薬局
 - 1) 会議形態の収集および薬務課に可否提示してもらい、適合するものを周知
 - 2) 医療機関との情報共有の例示収集および薬務課に可否提示してもらい、適合するものを周知
 - ・専門医療機関連携薬局
認定を受けている三栄堂薬局、連携拠点となりうる下関済生会、情報共有の調査実施中の有海准教授に協力を仰ぎ手順書を作成。認定取得の可能性のある薬局に対し、手順書を基に支援を行う。
 - (3) 認定取得に必要な調査
対象：地域薬剤師会
調査項目：
 - 1) 専門医療機関連携薬局を検討できる薬局・薬剤師の有無
 - 2) 地域ケア会議の内容及び構成員
 - 3) 病院薬剤部からの退院時の情報提供の有無や情報提供の形式
 - 4) 医療機関への情報提供内容が実績となるか判断に迷うケース
4. 今後の予定
次回 WG 調査項目のひな型を作成し、8 月末日までに第 2 回を開催する。

傷病の区分に係る専門性の認定を行う団体

1 認定団体

規則第10条の3第6項に規定する基準に基づき厚生労働大臣に届け出た団体

2 傷病の区分

がん

3 届出団体数

2 団体 (R4.6末時点)

| 団体名 | 専門性の名称 | 届出受理年月日 |
|---------------------|------------------|----------|
| 一般社団法人 日本医療薬学会 | 地域薬学ケア専門薬剤師 (がん) | 令和3年6月9日 |
| 一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会 | 外来がん治療専門薬剤師 | 令和3年6月9日 |

4 認定要件

○地域薬学ケア専門薬剤師 (がん)

- ・実務経験を5年以上有すること
- ・日本薬剤師研修センター「研修認定薬剤師」等の認定薬剤師の認定を受講
- ・研修施設において、がん研修ガイドラインに従って地域薬学ケアに関する5年以上の研修歴を有すること (カンファレンスへの参加を含む)
- ・クレジット：5年で50単位以上履修
- ・薬物療法専門薬剤師集中講義及びがん専門薬剤師集中講座：1回以上参加
- ・自ら薬学的管理を行った5年間の症例報告：50症例＋がん領域20症例
- ・医療薬学に関する学会発表が2回以上または論文発表1回 (筆頭) 等

○外来がん治療専門薬剤師

- ・実務経験を5年以上有すること
- ・日本薬剤師研修センター「研修認定薬剤師」等の認定薬剤師の認定を受講
- ・研修：60単位
- ・サポート事例：10例
- ・がん診療病院連携研修の修了 等

【参考：県内の取得状況】

| | 研修施設数 | 認定者数 |
|---------------------|--------------------|------|
| 地域薬学ケア専門薬剤師 (がん) | 1 施設 (山口大学医学部附属病院) | 1 名 |
| 外来がん治療専門薬剤師 | 1 施設 (岩国医療センター) | 2 名 |